

復在七面

特44

789

二
十
六

東 京 圖 書 館

和
書
門

音
樂
類

函

四
八
架

五
號

二
八
冊

現在七面



此の世の教法のよき時に入教ふ能
く立し。檀文二教ふりかたり。ま
後小滅後の弘経も山像未り
次第して。今後必百歳の時あり
の時機よ叶ふ妙法と弘めり

國は安全のまゝと見えとあせり
甲斐の尾延の山ふりさけり
實を人の扉乃月あま後備
終乃あつと心三観のまゝと
前あつ第一天の月まゝなり也
^上尾上の風のまゝとせしめ
つ

法のおうまゝなり
ひまよた無河流深のまゝ
かゝる勢の心も余もなり
巻の法乃花のひもまゝなり
ふまはるまゝなり
心乃まゝなり

天竺

二

秋法

善所りのるめきの後浦禮鑽

とてさかみおちほひさしひかきかき

女性のきくおちほひさしひかきかき

来りてさうく名どおちほひさしひかきかき

^{第ニテ女}法の教へと身おちほひさしひかきかき

との道おちほひさしひかきかき ^{サレニ}有かきの禮鑽

中なる漢とあてら四明の洞和朝お

てん我立拙と縁しおちほひさしひかきかき

いそまきおちほひさしひかきかき ^トね又大白波其井

の河風お浪のさ屋もおちほひさしひかきかき

随縁言おと断せし ^ト谷の戸らみさ

夢もほと智ふる花の枝 ^{上多ハ}ヤ来て

難入心はよふ海に舟を乗る海のはる本
うきうきなるのむきならん人なれば
ておりの後さうきか下かおし
縁と結ひ様の舟も海に舟を乗る
か又らうきとねの舟に舟を乗る
かさうきとつこ上人ふ結縁と

なれよかりあり早美きねさ
行心うきおは花縁とならぬ
まの美き有き法者雲一石成仏と
從縁して二葉の葉提悪人女人を
一舟に舟を乗る舟を乗る舟を乗る
か上ねの舟を乗る舟を乗る舟を乗る

名をたふもしきしきくぬくぬく
とほふたりのりまてふて舞う我
法ひくんとえれりーたわうや
ねも女の仏とあゝ溜と志あー
かーい海ワキ中ワキのや草木
ふ上ワキ悉皆成佛うは真經お

まの女人のたすかりらるる
海つくまをくー多能三三三三三三作は真經
とらつと秋言入を劫のとの昔
初成道う時さうりねひー
妙法は経なりワキ能ふた衆
の胡より殺者のたふあゝ

柝止在懐し寝ひて寝るの言後
機小徒ひ寝よ一葉と送らるる
十畧名別コトナヒまらしくありコトナヒ名コトナヒ夜コトナヒ
ふ女人ヤラの外面ヤラの暮後ヤラふ思ヤラく月
ふコトナヒ夜コトナヒぬコトナヒのコトナヒぬコトナヒとコトナヒ寝コトナヒまコトナヒしコトナヒどコトナヒの
その葉コトナヒのコトナヒりコトナヒくコトナヒらコトナヒ寝コトナヒのコトナヒらコトナヒらコトナヒふ

一葉コトナヒのコトナヒ安コトナヒ達コトナヒるコトナヒ葉コトナヒのコトナヒ思コトナヒ後コトナヒやコトナヒあコトナヒれ
くコトナヒるコトナヒ葉コトナヒのコトナヒりコトナヒくコトナヒらコトナヒ寝コトナヒまコトナヒしコトナヒどコトナヒの
まコトナヒらコトナヒくコトナヒらコトナヒ寝コトナヒまコトナヒしコトナヒどコトナヒのコトナヒらコトナヒらコトナヒふ
やコトナヒらコトナヒかコトナヒらコトナヒ寝コトナヒまコトナヒしコトナヒどコトナヒのコトナヒらコトナヒらコトナヒふ
るコトナヒのコトナヒ思コトナヒ後コトナヒのコトナヒ思コトナヒ後コトナヒのコトナヒ思コトナヒ後コトナヒのコトナヒ思コトナヒ後コトナヒ
裁コトナヒてコトナヒばコトナヒらコトナヒ寝コトナヒまコトナヒしコトナヒどコトナヒのコトナヒらコトナヒらコトナヒふ

博覧強記の才を以て天下を治むる者
其の才は天に賦せられたるものなり
空ふあゝと世ははかばか

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲跡生

示来荏苒数十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十七年七月五日 出版御届
同 年七月 刻成癸允

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜



上京區第三十組三条通寺町西
丁子屋町 十一番戶

